

# 第1章

## コーディネータネットワーク

### 推進つくば会議の概要

---

- (1) 目的 (発起人: 江原秀俊)
- (2) 進め方
- (3) シンポジウムプログラム
- (4) 講師・パネラー等のプロフィール

# 第1章 コーディネータネットワーク推進つくば会議の概要

## (1) 目的 ~ 「発起人挨拶(江原秀敏)」より

本日は、150名ものご参加をいただき、本当にありがとうございます。ここは定員が100名の会場なので、ほとんどが机のない椅子席になってしまいました。たいへん窮屈な思いをさせていただきますが、どうかご容赦ください。

今回の会議は、私、江原と上原という、都市エリア産学官連携促進事業筑波研究学園都市エリア科学技術コーディネータの二人の名前でご案内をいたしました。我々の過去の経験をもとに議論をし、組織からではなく、二人の個人からご案内させていただく形にしました。この度このような会が成立するためには、たくさんのご支援を賜っております。とりわけ独立行政法人経済産業研究所デジタルニューディール事務局の出口事務局長、茨城県商工労働部の滝本部長の格別なるご配慮の下に、このような場を開催できましたことを厚く御礼申し上げます。

それでは、今回のつくば会議についてご説明いたします。時間の都合上、大部分を省略した説明になりますが、ご容赦ください。

### 本日のつくば会議の問題意識と位置付け

過去に存在したコーディネータに関する会議

#### 中小企業庁コーディネーション・ネットワーク支援構想

(1998年4月～、中小企業総合事業団 全国中小企業団体中央会へ)

- ・各地の産業界や産学官連携のキーマンとなっているコーディネータを支援しようとする政策
- ・従来の産業政策に、ネットワーク、広域連携、の視点を取り入れたもの
- ・成果評価に関する報告書(平成15年3月)

#### 中国・四国地域産学官コラボレーションシンポジウムの第3分科会

(2003年8月)

これらの問題意識を参考にしながら、産学官連携に特化した「コーディネータ・ネットワーク」が今回の総合テーマである

今回、「コーディネータネットワーク推進会議」という名称でご案内できた背景は、単純にこの1,2年の流れではなく、その4,5年前に大変優れた会議があったことです。今回皆様方に、事前アンケートという形で様々な声を聞かせていただきましたが、そのアンケートの基もその会議の内容であります。その優れた会議とは、1988年4月にスタートした中小企業庁の「コーディネーションネットワーク支援構想」というものです。これが、中小企業総合事業団、そして全国中小企業団体中央

会へと構想が受け継がれてきました。ここが、「コーディネータ・サミット」というものを開催しております。この平成15年で事業が終わる予定でございます。平成15年の3月に、成果報告書が出されています。非常に優れたものですので、今日参加された人の中で関心のある方がいらっしゃれば、是非問い合わせてみてください。その中において、「コーディネータの役割」ということを、整理してあります。こういった優れた蓄積の上に、今回の会議を開かせていただいた、という次第です。

コーディネータのネットワークについては、ここ数年、大きな流れがございます。中国・四国地方の経済産業局が「コーディネータ・サミット」的な企画をしております。2003年8月には、産学官連

携サミットの第三分科会において、コーディネータの量・質を共に飛躍させるためにはどうしたらいいのか、といった内容を取り扱いました。その内容は大変参考になりますが、さらに2004年1月14,15日には、九州地域における産官学連携コーディネータ会議を九州経済産業局が主催します。これは、大分大学も合同で開催するもので、「全国コーディネータ会議」ということになります。今回の発起人の二人も招かれております。全国のコーディネータの有用なネットワークを作っていきたい、というのが、私どもの考えでございます。

## コーディネータ活動の目的はアンケート問2に集約される

コーディネータが活躍を期待されている場

1. 地域振興・産業振興
2. 新事業・新商品開発支援
3. IT推進支援
4. 市場開発・販路開拓支援
5. 技術開発・技術向上支援
6. ベンチャー支援・創業支援
7. 大学発ベンチャー支援
8. 産学官連携

コーディネータ活動全体から見れば、産学官連携は1/8

## 問「コーディネータって何？」

- 今回の会議での問いかけの1つは、「コーディネータって何？」ということです。
- もっと言えば、「コーディネータって必要なの？」
- 逆説的に言えば、「コーディネータなる存在がいないと、前ページの8項目はできないのか？」
- 発起人の答えは、「否！」です。
- コーディネータという職種が存在がいようといまいと、今日まで、8項目の内容は動いてきました。
- 産学官連携も今風ではなくても動いていました。

コーディネータはといったどのような場で活躍しているのか、ということについては、ここにあげている8項目によく現れています。ここ1,2年の間では、産学官連携に関するコーディネータの必要性が注目を浴びていますが、中小企業支援・産業支援という視点から考えてみると、他の7項目に関するコーディネータの活躍が極めて大きな重きを持っています。アンケートを見ても、コーディネータが活躍を期待されている場のうち、産学官連携に関する部分は、たかだか1/8にすぎません。そういう意味において、今日の会議でも、産学連携・大学発ベンチャーという部分においてコーディネータは重要、としていますが、改めて足元を見て、この地域に産業をいかに育成していくのか、ということを考えますと、産学官連携以外のコーディネータの機能というものをしっかりと確認し、重視していかなければいけないと思います。

今回のこの会議には、私も含めまして数十名の「コーディネータ」という肩書きを持っておられる方々に参加していただいております。

果たしてこの「コーディネータ」とはどのようなものであるのか？ どのような仕事の内容であるのか？ これは職種であるのか、あるいは単なる機能であるのか、というのが問いかけです。これに関しましても、今回の会議で取り上

げていきたいと思いますが、過去「コーディネータ」という職がなくても、先ほどあげた8項目については、確実に実績はあげてきているわけです。逆に言えば、日本経済や産業の過去の実績や成長の根源

## 問「コーディネータって何？」(続き)

- 「この数年で出現した、コーディネータという存在は、何なのか？」
- 「過去の事務局長をコーディネータにただけなのか？」
- もっと言えば、「過去に確実に存在し、機能してきた、『コーディネート機能』の役割をしてきた“人物”を、コーディネータという肩書きをつけて人工的に作り出すことが可能なのか？」
- 可能とすれば、「作り出すための『仕様』は何か？」
- 「人工物と自然物の違いは？」

にコーディネータ的な方がいらっしゃったがゆえに、「コーディネータを量産すれば、もっと大きな成果が生まれるに違いない」のように安易に考えているのだとすれば、それは大きな間違いではないかと私は考えております。しかしながら、いい形でコーディネータを委嘱する、また、コーディネータを使う機能を見出す、ということに成功すれば、大きな効果が期待できるに違いないと思っております。

私ども「コーディネータ」

という肩書きを持っている者は、いわば“人工物”であり、委嘱されて「コーディネータ」となっておりますが、実は、「コーディネータ」という名前がついていなくても、その地域において、また産業において、業界において、先にあげた場で活躍している人はたくさんいらっしゃいます。自分がいうのではなく、他人がその役割を認めるような方こそが、「ホンモノのコーディネータである」と思えるのですが、そういった方に、「60歳過ぎたのだから、コーディネータをやってください」と言っても、その方達は他に忙しく、自分の分野で「コーディネータ」の役割を担っています。そういったことで、最終的には、あらゆる面の色々な能力から「コーディネータ」というものが委嘱されることになります。そうすると、“人工物”と“自然物”の違いが出てきます。そういったコーディネータというものの内容を、もう少し吟味してみないと、多くの成果をあげることができないのではないかと、ということから、今回の会議を開催する運びとなりました。

コーディネータとは何なのか、コーディネータが有効に機能するネットワークの可能性があるのか、そのようなことを議論していきたいと思っております。



都市エリア産学官連携促進事業  
筑波研究学園都市エリア 科学技術コーディネータ  
江原 秀俊

## (2) 進め方

今回の会議は、10月14日に会場へ足を運んでくださる方のみではなく、産学官連携活動の現場に関わっている、できるだけ多くのコーディネータの声を反映しながら進めたいと企画いたしました。そこで、会議の事前に、会議のご案内とともに、

《コーディネータの声アンケート》

を郵送にてお願いいたしました。

10月14日のシンポジウムには、《コーディネータの声アンケート》の集計データを、パネラーと会場の参加者にお見せしながら、話を進めました。

会議の参加者には、会議終了後、

《参加者の声アンケート》

をお願いいたしました。会場出口で、またはお持ち帰りいただき、後日郵便、ファックスやメールにてご返信いただきました。

度重なる回答にご協力いただき、ありがとうございました。

本報告書は、《コーディネータの声アンケート》・シンポジウム会場・《参加者の声アンケート》の、本会議に関わった全ての声を取りまとめたものです。

### (3) シンポジウムプログラム

開 会

発起人挨拶 都市エリア産学官連携促進事業 科学技術コーディネータ 江原秀敏

共催者挨拶 茨城県商工労働部長 滝本徹

#### < 第一部 > 基調講演

「電通大 TLO 社長のコーディネータ・ライフとは？」

講師 (株)キャンパスクリエイト 代表取締役社長 安田耕平

#### < 第二部 > パネルディスカッション

「筑波研究学園都市におけるコーディネータの役割と課題」

パネラー (独) 産業技術総合研究所ベンチャー開発戦略研究センター

ベンチャー支援アドバイザー 本田皓一氏

筑波大学 知財統括本部 技術移転マネージャー 藤田尚徳氏

つくば市産業コーディネータ 橋本明氏 (株)MCB インフォマティクス取締役)

(株)つくば研究支援センター インキュベーションマネージャー 石塚万里氏

(株)キャンパスクリエイト 代表取締役社長 安田耕平氏 (基調講演講師)

コメンテーター 茨城県商工労働部長 滝本徹氏

(独) 経済産業研究所デジタルニューディール事務局長 出口俊一氏

コーディネータ 都市エリア産学官連携促進事業 「筑波研究学園都市エリア」

科学技術コーディネータ

江原秀敏

上原健一

#### < 第三部 > 懇親会

つくば研究支援センター内 テクノ大ホール

閉 会

#### (4) 講師・パネラー等のプロフィール

##### 【基調講演講師（兼 パネラー）】

安田耕平氏 (株)キャンパスクリエイト 代表取締役社長

1943年 東京都生まれ  
1968年 電気通信大学 電気通信学部 電波工学科 卒業  
1980年～1989年 ユニダックス(株)システム営業部長  
1989年～1999年 (株)アパールデータ取締役営業部長・常務取締役  
1999年 (株)キャンパスクリエイト設立、代表取締役社長就任  
現在 (株)キャンパスクリエイト代表取締役社長  
電気通信大学共同研究センター客員教授  
同大学大学院情報システム学研究科情報ネットワーク学専攻博士後期課程在学中  
各種コーディネータ活動、委員会活動を展開中

##### 【パネラー】

本田皓一氏 (独)産業技術総合研究所ベンチャー開発戦略研究センター ベンチャー支援アドバイザー

昭和46年～ 通産省工業技術院(現:産業技術総合研究所)東京工業試験所入所

同院化学技術研究所・生命工学工業技術研究所にて研究活動に従事

平成6～8年 和歌山県工業技術センター所長

平成8年 通産省工業技術院生命工学工業技術研究所分子生物部長

平成13～15年 (独)産業技術総合研究所産学官連携部門次長

平成15年4月～ 現職

藤田尚徳氏 筑波大学 知財統括本部 技術移転マネージャー

昭和46年3月 大阪大学大学院基礎工学研究科・物性物理学専攻修士課程終了

昭和46年 三菱化成工業株式会社入社

三菱化学入社以来 一族化合物半導体の結晶成長、特にLED材料のエピタキシャル技術の開発、情報電子関連の事業探索、事業企画を担当した。

平成15年 三菱化学退社

平成15年6月 筑波大学産学リエゾン共同研究センター

橋本明氏 つくば市産業コーディネータ (株)MCB インフォマティクス取締役)

(株)エーザイツくば研究所にて、医薬品の研究開発から人事・総務まで歴任。

同所総務部長の際、つくば市工業団地企業連絡協議会会長を務める。

退職後、つくば市産業コーディネータを委嘱される。

本年3月から、市内のバイオベンチャー(株)MCB インフォマティクス取締役も兼任。

石塚万里氏 (株)つくば研究支援センター インキュベーションマネージャー

筑波大学芸術専門学群卒業後、茨城県内公立中学校教諭を経て、1989年4月株式会社つくば研究支援センターの開業と同時に入社。財務経理及び会社運営事務を担当後、入居企業及び大学発ベンチャー育成に関わる。

2001年1月 JANBO インキュベーションマネージャー (IM) 養成研修修了。

2002年6月より 財団法人日本立地センター IM インストラクター及びIM養成研修講師。

2003年7月より (独)産業技術総合研究所ベンチャー開発戦略研究センターベンチャー支援室 ベンチャーサポートアドバイザー。

## 【コメンテーター】

滝本徹氏 茨城県商工労働部長

昭和58年通商産業省(現:経済産業省)入省。在ポーランド日本大使館、工業技術院、世界平和研究所、国際経済部公正貿易推進室長、生活産業局繊維通商室長、資源エネルギー庁液化石油ガス産業室長。

出口俊一氏 (独)経済産業研究所デジタルニューディール事務局長

産経新聞社に入社し栃木県日光勤務を振り出しに、本社編集局社会部、警視庁、都庁キャップ、フジサンケイグループ事務局、産経新聞社総合企画室でインターネット事業を手がけたほかフリーペーパー「東京シーサイドストーリー」創刊、環境自治体ISO会議創設、電子メディア部初代部長、産業製品検索サイト「産業店」開設などを経て、2002年より現職。

事業再生実務家協会会員、即効型地域コンソーシアムスーパーバイザー、未来構想戦略フォーラム世話人、NPOシニア未来ネットワーク理事



## 【コーディネータ】

江原秀敏 都市エリア産学官連携促進事業 筑波研究学園都市エリア科学技術コーディネータ

早稲田大学を卒業後、民間シンクタンクでの研究業務を経て、1984年より九州における産学官協力学会議の設立に従事。以来19年にわたり産学官協力の前線に立ち、豊富な経験を蓄積する。九州産業技術センターの設立提案のためのシンポジウム企画立案運営、JSTの大型プロジェクト創造科学技術推進事業の地元選出に従事、ファジィシステム応用研究会を企画運営、財団法人ファジィシステム研究所の設立へとつなげる。1998年より総務省外郭財団法人電気通信高度化協会情報基盤協議会地域情報化アドバイザー、2001年より大分大学地域共同研究センター客員教授、2002年より九州大学先端科学技術共同研究センターPEC。筑波大学システム情報工学研究科科学技術コーディネータ。2003年より大分大学VBL客員教授。編著に『頭脳列島「日本」の創成 産学官協力の新展開』（工業調査会）、『ファジー応用ハンドブック』（工業調査会）などがある。

上原健一 都市エリア産学官連携促進事業 筑波研究学園都市エリア科学技コーディネータ

筑波大学卒業後、日本鉱業株式会社（現：ジャパンエナジー）にて電子デバイス、磁気ヘッド等の新事業企画から製造・営業まで担当。

退職後、株式会社ジャフコ、株式会社筑波リエゾン研究所（TL0）にて、産学官連携やベンチャー支援の実務に携わる。

現在、有限会社つくばインキュベーションラボ取締役

茨城県中小企業支援センターコーディネータ

筑波大学知財統括本部 ビジネス・インキュベーション・マネージャー

北海道大学客員教授

筑波大学産学リエゾン共同研究センター客員研究員

筑波大学非常勤講師

茨城大学非常勤講師 などを兼任。